

冬季における突然の降雪や暴風雨に注意が必要です

県内でも冬季には例年、突然の降雪や暴風雨が発生して、農作物に被害を生じることがあります。気象予報は時に急変しますので、こまめに気象情報を収集し、降雪や暴風雨による農作物への被害を軽減させる対策に努めてください。

なお、ハウスや露地野菜、果樹などに被害が生じた場合には、その程度に応じた対策を図ってください。被害が比較的軽くても、生育への影響、病害の発生などが懸念されますので、その対策が必要となります。

【事前の準備】

パイプハウス等の被害を受けやすい施設については、施設内外や周辺の整理、補修、補強などを行って、被害をできるだけ回避する準備をします。降雪には、施設内の暖房器具や燃料等を点検し、正常に移働するよう確認します。なお、屋根等への散水により融雪を行う場合は、積雪前から行うのは有効ですが、積雪後に開始すると、水を含んだ雪の重量で倒壊する恐れが生じるため避けてください。

【降雪中の対応】

安全を確認しながら、速やかに雪下ろしを行います。また、暖房などで、施設内の温度を高め、雪の滑落を促します。なお、施設内へ侵入する場合には、倒壊等の恐れがないことを十分確認することが必要です。

【被害発生時の対策】

1 施設野菜（イチゴ、キュウリ、トマト、ピーマン、メロン、スイカ、葉物類など）

果菜類は、開花から幼果期の耐寒性が低いため、不受精や奇形果などの障害発生や、低温遭遇での生育不良にも注意が必要です。葉菜類でも、急激な低温遭遇で生育不良や茎葉の枯死など、障害が発生する場合があります。

<対策>

- 1) 施設が倒壊や半壊した場合は、安全に修復作業を検討してください。
- 2) ビニールの破れやはがれで、ハウス中の作物に被害が生じた場合でも、栽培が継続可能な場合には、早急に破損個所の修復を行い、温度確保に努めます。また、施設内に雪や雨水が侵入した圃場は、換気を図るなどして湿度の低下に努めてください。これら施設内の作物は根傷みなどで草勢が低下しやすくなっているため、果菜類では適正な摘果や早めの収穫で着果負担を軽減します。いずれの作物も、必要に応じて液肥の散布等による生育の回復を図り、さらに病害虫の発生を抑制するための薬剤散布を行ってください。
- 3) 生育初期の作物が被害を受けた場合は、予備苗による植え替えや再播種などを検討してください。

2 露地野菜（レタス、ハクサイ、キャベツ、ネギ、ホウレンソウなど）

冬春用の栽培品種は、耐寒性が強い傾向ですが、結球期に低温遭遇すると、凍結の被害を生じる場合があります。

<対策>

- 1) ビニールの破れやはがれで、トンネル中の作物に被害が生じた場合でも、栽培が継続可能な場合には、早急に破損個所の修復を行います。また、作物が根傷みなどで草勢が低下しやすくなっているため、必要に応じて液肥の散布による生育の回復を図り、さらに病害虫の発生を抑制するための薬剤散布を行ってください。
- 2) 生育初期の作物が被害を受けた場合は、予備苗による植え替えや再播種などを検討してください。

3 果樹

<対策>

- 1) 樹体被害の損傷に応じて、かすがいやボルト等を使っての損傷部の癒合や改植等の検討が必要になります。
- 2) 倒伏した場合は、健全な根を切らないように、出来るだけ早く引き起こし、支柱を添えて固定します。また、枝が裂けた場合は、針金やボルト等で結合し、傷口に塗布剤を塗っておきます。
- 3) 被害により樹勢が弱まっている場合は、必要に応じて樹勢に見合った適正な剪定や施肥による生育の回復を図り、さらに、葉害の発生に留意しながら、病害虫の発生を抑制するための薬剤散布を行ってください。

4 作物生育の回復対策（葉面散布剤の使用例）

<葉菜類や根菜類>

メリット青 500～800 倍＋グリーンセーフプラス 800～1,000 倍＋カルタス 500 倍を、3～7 日おきに 2 回程度の葉面散布を行います。

<果菜類>

メリット青またはメリット黄 500 倍＋グリーンセーフプラス 800～1,000 倍＋カルタス 500 倍を、3～7 日おきに 2 回程度の葉面散布を行います。 ※ 青・黄は生育に応じて使い分けてください。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 NEWS は JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。